

麻しん（はしか）に関する注意喚起

東北文化学園専門学校 保健室作成

日本は、2015年にWHOから「麻しんの排除状態にある」ことが認定されましたが、最近海外からの輸入症例を契機として大阪や東京などで麻しんの報告が続いており、メディアでも取り上げられています。この機会に、予防法などを確認しましょう。

予防接種が唯一の予防法！

○**感染力はきわめて強く**、重症化すると脳炎や肺炎などの重篤な合併症を引き起こします。

※麻しんの免疫がない集団に1人の発症者がいたとすると、12～14人の人に感染するとされています。（インフルエンザでは1～2人）

○空気感染もするので、**手洗い、マスクのみでは予防できません。**

○**有効な治療薬はなく**、対症療法が行われます。→**予防が重要！**

○免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続すると言われています。

免疫があるとされる人とは？

- ・予防接種を2回した（母子健康手帳等の記録が必要）
- ・過去に罹患した（検査で確認が望ましい）

2000年4月2日以降に生まれた人は、定期接種として2回（**1歳時と小学校入学前1年間**）の麻しん含有ワクチンの接種機会が提供されています。それ以前に生まれた人は、1回だけの接種、または未接種の可能性が高いです。

- ※麻しんに罹ったことがなく、1回も予防接種をしていない人
- ※必要回数である2回の予防接種をしていない人
- ※麻しんに罹ったかどうか不明で、予防接種歴も不明な人



抗体検査での免疫の確認や2回目の予防接種が推奨されます。
かかりつけ医師にご相談ください。

※抗体検査、麻しん含有ワクチンの接種は、全額自己負担となります。

母子健康手帳で2回予防接種をしているか確認しましょう！

母子健康手帳を含む予防接種記録は大事に保管し、その複写などを学生本人が管理できるようにしましょう。

【ワクチンの種類表記の例】

*麻しん（はしか）ワクチン

*MR ワクチン

麻しん（はしか）・風しんの2種混合ワクチン

*MMR ワクチン

麻しん（はしか）・流行性耳下腺炎（おたふく）・風しんの3種混合ワクチン



【実施年月日表記例】

*16.10.7→平成16年10月7日に実施

【麻しんの経過】

発症

一度熱が下がる

期間	潜伏期	カタル期	発疹期	回復期
日数	(発症まで) 10～12日間	(発症から) 2～4日目くらい	3～4日目くらい	7～10日目くらい
症状		・38度前後の発熱 ・上気道炎症状 (咳・鼻汁・くしゃみ) ・結膜炎症状 (目の充血・目やに・光をまぶしく感じるなど) ・コブリック斑(口の頬あたりの粘膜に白い斑点ができる)	・発熱(多くは39度以上) ・赤い発疹(耳後部・顔→体幹→腕→足)	・解熱 ・発疹消退、色素沈着が残る

【麻しん発症者と接触した場合】

※登校前に電話で学校に相談してください。

- ・免疫が不十分な人の場合は、接触後72時間以内の麻しん含有ワクチンの緊急接種や6日以内のガンマグロブリン投与により発症を予防できる可能性があります。
- ・受診する際は、近くの医療機関に電話で「麻しんの疑いがある」ことを伝え、以降は医療機関の指示に従いましょう。

【麻しんと診断された場合】

※感染拡大を防ぐため登校せず、電話で学校に連絡してください。

学校では保健所の指示に基づき接触した学生、教職員などと連絡を取り、健康調査を行います。

- ・学校保健安全法により「解熱した後3日を経過するまで」あるいは「病状により医師において感染の恐れがないと認められるまで」は出席停止。